

先生*お薦めの一冊

『羅生門・蜘蛛の糸・杜子春 外十八篇』

芥川 龍之介 著 (文藝春秋)

国語科 濱崎 望

先日(1月19日)の南日本新聞・南風録に、遠藤周作が「芥川賞」を受賞した翌年、喜びの余り長男の名前を「龍之介」とした、というくだりがあった(遠藤龍之介氏は現在フジテレビ専務取締役)。思うに、我が国における「芥川龍之介」の知名度は極めて高く、そのせいか、日本のほとんどの高校生は、1年生の現代文授業において「羅生門」を読む、ということになっている。タイトルに掲げた文春文庫の1冊はそれゆえ本校の「読んでおきたい本」リストに毎年掲載されている定番。

今読み返しても、この本に収録された作品群は、いかにも「小説の見本です」といった趣があり、プロの作家の指標にもなってきた。場合によっては「上手すぎてつまらない」というひねくれた感想を持つ読者もいるほどである(ちなみに芥川は大正初期の文学流派において「新技巧派」と称されたグループに属する。テクニシャンなのである)。本書は、「小説」というジャンルに興味がある者にはまさに「教科書」となる。

食べたくてたまらなかつた芋粥を大量に提供された僧(「芋粥」)、娘が焼死する様を夢中になって写生する画家(「地獄変」)、師匠・松尾芭蕉の臨終に際し繰り広げられる弟子たちの心理劇(「枯野抄」)…等々、どれをとっても珠玉の作品群。ぜひご一読を。個人的には「河童」を推しておく。奇天烈なカッパの世界に迷い込んでみてほしい。



図書館の移転に伴う お知らせ*お願い

3月の下旬に、図書館は食堂の上に引っ越します。しばらくは移転の準備で貸出等のサービスができなくなります。2月中は、書籍を分類ごとに箱に詰める作業をしていますので、本を借りている人は早めの返却をお願いします。最終返却日は2月28日(火)です。それまでに完全に返却が完了するようにお願いします。3年生の皆さんには後期の小論文対策用資料を提供できないこととなります。3月6日(月)までは閉館しますので、館内での資料閲覧で知識をより深めてください。

- 返却日 2月28日(火)までに返却完了
- 書架室利用 3月6日(月)昼休みまで閉館
- 学習室利用 3月4日(土)5日(日)まで通常通り開放



新しい図書館は少し狭くなり、図書館学習もできなくなります。戸惑いはあるものの、これまで以上に利用しやすい図書館になるはず。期待してください。52期生の皆さんには、受験前に十分な資料を提供することができませんでした。しかし、限られた資料を十二分に活用して学習する姿こそが「真の鹿児島中央生!」でした。毎日毎日、遅くまで自習した学習室はなくなりますが、皆さんが読んだ資料は、後輩たちに受け継がれていきます。

1月の貸出統計* 322冊

学年	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	1	1	0	6	5	12	1	1	2	20	6	9	37	15	31	7	2	16	13	23	19	31	24	40
合計	27冊								127冊								168冊							

ごんのひょうえ

ご近所出身の偉人たち 山本 権兵衛 (1852~1933)

1852(嘉永5)年、下加治屋町に生まれた山本。子どもの頃は相撲が大好きで力士になろうとしたこともあるほどだったそうです。16歳の時に、18歳と偽って戊辰戦争に参加します。1874(明治7)年、海軍兵学寮を卒業し少尉補に任命されました。1886(明治19)年より天城・高雄・高千穂の艦長を務めた後に、1898(明治31)年第2次山県内閣の海軍大臣となります。大臣就任中に勃発した日露戦争では、東郷平八郎を連合艦隊司令長官に任命しました。

1913(大正2)年、第16代内閣総理大臣に就任。しかし、シーメンス事件が起こり辞職します。1923(大正12)年、再び第22代内閣総理大臣に就任(外務大臣も兼務)しますが、虎の門事件(摂政官狙撃)が起こり、翌年1月責任をとって辞職しました。以後、政界の表舞台から姿を消したのです。

余談ではありますが、山本権兵衛も東郷平八郎も、とてもダンディな「イケメン」です。知れば知るほど魅力的な町・加治屋町。もっとも加治屋町を探索してみませんか!



参考文献『学校周辺の史跡めぐり』『加治屋町の偉人たち』鹿児島県立鹿児島中央高等学校 発行

『鹿児島の先人たち』鹿児島県教育出版 発行

今年度よく読まれた本

平成28年度、最も貸出が多かった本は『あさきゆめみし』(大和和紀著 講談社)と、『君の膵臓をたべたい』(住野よる著 双葉社)でした。本校では、ここ数年貸出ナンバーワンは『あさきゆめみし』です。源氏物語の理解を深めるために借りる人が多いようです。それでは、利用の多い本を紹介しましょう。

- | | | |
|----|-----------------|--|
| 1 | 『あさきゆめみし 1』 | 大和和紀 著 (講談社)・・・『源氏物語』の予習復習の友! |
| 1 | 『君の膵臓をたべたい』 | 住野よる 著 (双葉社)・・・ベストセラー作品はやっぱり人気があります。 |
| 3 | 『看護』 | 増田れい子 著 (岩波書店)・・・看護師志望の必読書! |
| 4 | 『化物語 上』 | 西尾維新 著 (講談社)・・・人気作家の作品です。 |
| 5 | 『告白』 | 湊かなえ 著 (双葉社)・・・湊かなえ人気に陰りはみえません。 |
| 6 | 『2.43』 | 壁井ユカコ 著 (集英社)・・・高校のバレー部が物語の舞台です。 |
| 6 | 『浮雲心霊奇譚 2』 | 神永学 著 (集英社)・・・神永ファンも多いようです。 |
| 8 | 『人間失格』 | 太宰治 著 (集英社)・・・太宰治は、いつの時代も若者に人気の作家です。 |
| 8 | 『ラブコメ今昔』 | 有川浩 著 (角川書店)・・・すべての有川作品がまんべんなく読まれています。 |
| 10 | 『多文化世界』 | 青木保 著 (岩波書店)・・・外国語を学びたい人の必読書! |
| 10 | 『聖路加病院で働くということ』 | 早瀬圭一 著 (岩波書店)・・・訪問看護について書かれています。 |

この後には『キャラ化する/される子どもたち』(土井隆義 著 岩波書店)、『ツナグ』(辻村深月 著 新潮社)、『舟を編む』(三浦しをん 著 光文社)、『看護の力』(川嶋みどり 著 岩波書店)、『何者』(朝井リョウ 著 新潮社)、『ディズニー ありがとうの神様が教えてくれたこと』(鎌田洋 著 ソフトバンククリエイティブ)・・・と続きます。楽しむための本と小論文対策用等の本が同じような割合で読まれています。

編集後記



もうすぐ卒業式。52期生の皆さん、おめでとうございます。卒業式の前には、国立大学の二次試験が控えていますが、平常心で乗り切ってください。先日、27期の先輩方と話す機会がありました。ラグビー部のキャプテンだったMさんは、現在博多の広告会社にお勤めで、鹿児島に関係する広告も作っているとのことでした。例えば、数年前の鹿児島国際大学の広告(教室からひとりの学生が走り出し、どんどん学生が増えていき、外に向かって走り出す・・・)や、一昨年のアミュの広告(ウルトラマンの家族がハワイ旅行に・・・)などもMさんの作品であるとのこと。「卒業してからが本当の勉強。今、いろいろな本を読んで勉強しています。周りの人の意見も謙虚に聞き、いろいろなことに挑戦しています。」と、語ってくれました。

最後に、原稿を快くお書きくださった瀧崎先生、ありがとうございました。52期の皆さん、いつ読んでも新鮮な芥川作品にチャレンジしてみてください。芥川は、多くのことを教えてくれるはず。頑張ってください!

